

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取中央） 3月号

1. 北条シャインマスカット 過去最高単価！13年連続更新中

J A 鳥取中央北条支所ぶどう生産部は2月4日、北栄町で総会を開いた。

主力商品「シャインマスカット」が13年連続で過去最高単価を更新し、2021年度の販売では、32.8t 出荷し、販売金額が前年実績比 1,214 万円増の 5,422 万円で、販売単価（kg）は、1,651 円（同 161 円高）だった。

総会では、生産者、J A 関係者など約 50 人が出席し、21年度事業報告や22年度事業計画などを承認した。同部は、21年度から新たに冷蔵貯蔵を開始しており、約 100 房を 3 か月間貯蔵し、ロスなく製品率 100%になったことを報告した。22年度も貯蔵率を増やし、有利販売に努めることを確認した。

21年度のぶどうの総出荷量 158.3t で、1億 9,188 万円（同 157 万円増）の販売と好結果となった。22年度は 152.5t、1億 9,210 万円の出荷、販売を目指す。同部の石宝梅市部長は「生産者が心を一つにして、消費者に高品質なぶどうを届けていく」と呼びかけた。



2. 栗原組合長がイチゴ生産者と意見交換を行いました！

J A 鳥取中央の栗原隆政組合長はイチゴ生産者を訪問し、J A に対する意見・要望などを聞き取った。生産現場の課題や経営状況などを把握し、今後の J A 事業の運営に反映させることを目的としている。

訪問を受けた同 J A 羽合苺部会の山下英夫会長と市橋勉副会長から後継者不足や近年の異常気象により、困難になる育苗の際の温度管理などへの対策を求められた栗原組合長は「ハワイイチゴの魅力を知ってもらうため、情報発信を強化し、新規就農者の獲得に繋げていきたい。暑さ対策については遮熱に有効な資材などの情報を収集し提供していく」と応えた。

今後も、定期的に出向く訪問活動は行われ、さらに地域に必要とされる組織づくりを目指す。



3. 令和3年度営農指導員成果確認会を行いました！（目標管理制度育成面接）

J A鳥取中央は、2月24日に令和3年度営農指導員成果確認会を行った。同J Aは、令和2年度から目標管理制度を導入しており、各職員は目標と自己統制によって、自分の仕事を管理する取り組みを行っている。

同日、本所と管内4営農センターをテレビ会議システムで結び、対象となる営農指導員29人が参加し、各指導員が5分間の持ち時間の中で前年度に掲げた「新規就農者の獲得」や「販売力の強化」などの目標を振り返り、その成果と今後の取り組みへの意気込みを報告した。

また、情報共有や連携を密にすることで、農業生産の拡大、農業者の所得向上の実現に向け、多様化する組合員ニーズに対応した営農指導事業の機能強化を進める。

同J Aの戸田勲常務は「指導員同士の協力体制を強め、広い視野をもって組合員から必要とされる職員になれるよう頑張ってもらいたい」とエールを贈った。



以上